

海外派遣留学プログラム報告書 (報告期間：2023/01/02 ～2023/03/05)

1. 勉学の状況

”Finnish history and culture”, “Survival Finnish” (初級フィンランド語), ”Diversity of organizational communication”, “Arts and Wellbeings”, “Each one teach one”, “Online communication and culture”, “International management”の7つをとっている。

いずれも簡単ではないが授業の予習復習を丁寧にすれば理解できる程度の難易度で、困ったことはない。偶然だが一日1コマずつ受けており、毎日大学に行くことで生活のリズムがうまくつかめている。

Survival Finnish はすでに受講が終わっており、5段階評価の内4をもらうことができた。

2. 生活の状況

二か月生活して、平日は、朝7時頃に就活をし、午前か午後に現地大学の授業が一コマ、昼食(学食が多い)、空きコマは学校の課題と就活、夕食はほとんど自炊で、余裕があるときはサウナかジムに行く、という一日の流れが定着した。朝6時から面接や企業説明会が時々あって、早起きが大変だが、バイトがないので日本にいるときより時間に余裕のある生活を送っている。ルームメイトが二人とも同性の日本人であること、同じ建物に住んでいる友達ができたことで、今のところ人間関係には悩んでいない。

物価は高いので普段外食することはあまりないが、スーパーにしょうゆやみりんといった日本の調味料が売っている他、大学の近くにアジアンショップがあり、食生活でもつらく感じることはなく過ごしている。

出国前は日照時間の短さや雪深さ、寒さによる心のダメージを心配していたが、ビタミン剤の摂取やサウナ、友達と過ごすことなどで上手く息抜きが来ている。

マスクは着用しておらず、手洗いや消毒で体調管理をしている状況だが、今のところ健康に過ごせている。

ユヴァスキュラに留学している日本人のLineグループがあり、今日はオーロラが見られそうとか、週末ストライキでスーパーが閉まるなどの情報が簡単に手に入るのありがたい。

友達が(おそらく)腎盂腎炎になり、入院した。お見舞いに行ったので病院の場所や様子が分かったのはよかったが、友達の姿を見て、そろそろ慣れと共に疲れや油断が出てくると思うのでコロナウイルスだけでなく体調に気を付けて生活しようと思った。

海外派遣留学プログラム報告書 (報告期間：2023/03/06 ～2023/05/05)

1. 勉学の状況

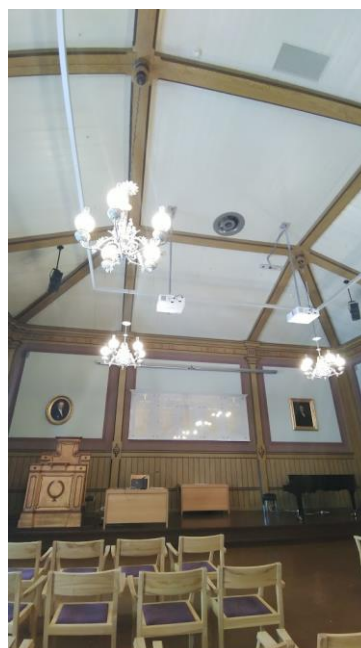
水曜日を除いて一日一コマずつ授業を受けています。主に所属するコミュニケーション学科の授業をとっています。

月曜日は”Finnish History and culture”で、歴史のパートは終了したので今はフィンランドの教育、政治、国防など社会全般に関して広く学んでいます。毎授業違う教授が来て講義をします。日本と比較して違うところが多いので大変興味深いです。

火曜日は”Online culture and mediated communication”という授業を受けています。インターネットの普及によるコミュニケーションや人や組織の在り方の変化に関する講義です。生まれたころからインターネットが当たり前があるので身近に感じられる技術ですが、数年単位ではるかに進歩する分野です。社会や人間の活動にもたらす影響を考えるきっかけになっています。余談ですが、大学内の古い教室で講義を受けており、内装はまるで教会のようで楽しいです。(右図)

教室の様子です。梁には聖書の一節が書いてあります。古い教壇とピアノ、この後ろにはパイプオルガンも置いてあり、窓際には胸像も置いてあります。

この教室がある建物には小さな博物館も併設されており、ユヴァスキュラ大学の歴史やかかつて使われていた教材が展示されています。



木曜日は”International management”です。国際企業の経営におけるコミュニケーションを学んでいます。常に発言を求めてくる教授で、指名されるプレッシャーにさらされるところが好きではないのですが、内容は興味深いです。外国人や異文化出身者と働くということは、単に他言語で仕事をするということではないのだということが分かりました。

金曜日は”Arts and wellbeing”です。この授業は私が所属するコミュニケーション学科の授業ではないですが、面白いです。音楽、絵、ダンスなどといった芸術活動・美的活動は人間の心、時には身体にも深く影響しています。受験勉強の時に、中国の王朝を歌って覚えたことがありますが、音楽が記憶に効果的にアプローチするいい例だと思いました。また、この授業を受けてから寮の自室に自分で描いた絵を飾りました。確かに癒されている、ような気がします。

また、授業とは別に”Each one teach one”というプログラムにも参加しています。フィンランド人の学生とお互いの言語を教えあう活動です。フィンランド語の発音は一部を除いて日本語と似ているので話すのは比較的簡単です。ただ、前置詞がなく名詞も動詞も活用形がたくさんあるので文法面ではハードルの高い言語だと感じます。それでも覚えたフィンランド語が誰かに通じた時はとてもうれしいです。

しかし、フィンランド語を習う以上に難しいのが日本語を教えることです。敬語の使い分け、一人称の多さ、年齢や性別で変わる語尾、三種類の文字などなど、自分にとって当たり前になってしまったことも改めて疑問をぶつけられると答えられないものが多くあります。私は日本

語では”Hi!”や”How are you?”にあたる挨拶をしないのでその点も適切な回答が難しいです。

言語の他にも互いの文化を学ぶため、一緒に料理をしたりクロスカントリースキーに連れて行ってもらったりもしました。



←marjapiirakka (マルヤピーラッカ)。
ベリーパイという意味です。リンゴンベリーとブルーベリーを使用しました。
写真は焼く前なので色が鮮やかです。

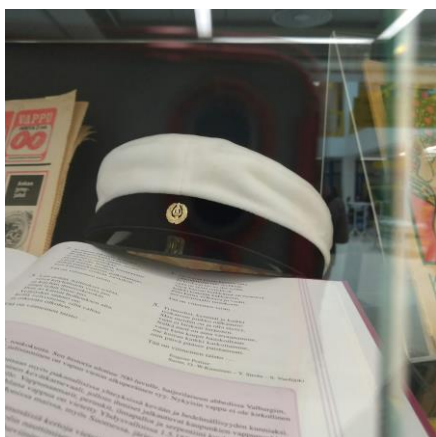
2. 生活の状況

4月までは就活にも力を入れていたのですが、これまで受けた企業全部に落ち、心が限界だったので5月は就活をいったんお休みすることにしました。日本の友達が次々に内定を獲得している様子を聞くと焦る気持ちもありますが、留学先で出会った学生ははるかに柔軟に自分の未来を選択しています。「新卒」の制度がなく、学生と社会人の境目もあいまいなようで、実際大学にも幅広い年齢の学生がいます。その様子を見て生き急ぐ必要もないと思い、残り少ない留学生活に集中することにしました。

気候に関しては、フィンランドもさすがに寒さが和らぎ、湖も大半が溶け、日陰に少し雪が残る程度になりました。4月に入って晴れの日が続き、夜8時ころまで日が沈みません。木々はまだ葉がありませんが、今年は特に暖かいとフィンランド人の友人が言っていました(4月末現在)。

そして迎えた5月。連日雨と雪。最高気温は2度前後と冬に逆戻り。フィンランド語ではこれを”Takatalvi”(タカタルビ)⇨冬戻りというそうです。さすがにやめてくれ。

5月1日はVappu(ヴァップ)というフィンランド全体の祭日でした。春の訪れを祝うお祭りで、大学生はみんなおそろいの帽子をかぶって、学部学科ごとに色の違うおそろいのオーバーオール(というかつなぎ)を着てピクニックをするのが通例です。私も留学生の友達とピクニックに行き、Vappuの食べ物であるmunkki(ムンッキ)というドーナツとsima(シマ)というジュースを飲みました。



←フィンランド人が高校卒業時にもらう帽子。
Vappuではみんなこれをかぶっています。真ん中のエンブレムは自分の大学のものをつけるそうです。

海外派遣留学プログラム報告書 (報告期間：2023/05/06 ～2023/05/31)

1. 勉学の状況

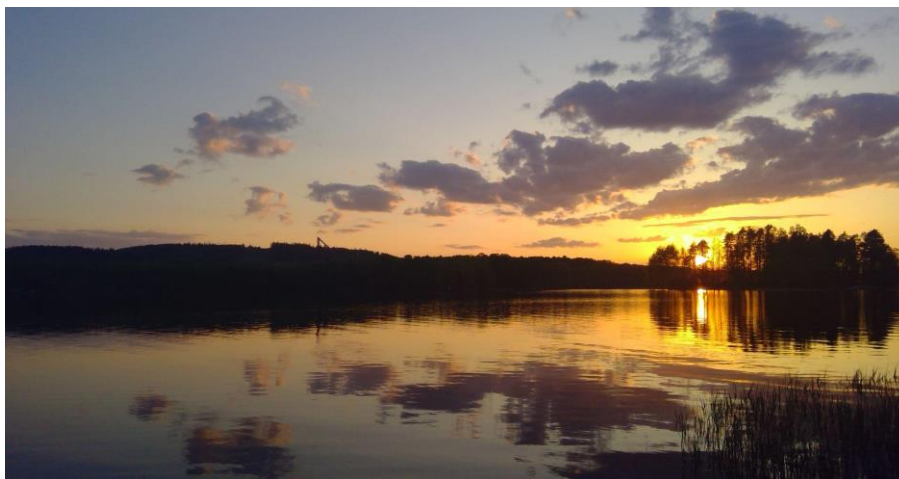
5月中旬で履修していた授業がすべて終わりました。最終レポートの形態は、各回のコメントをまとめた Learning diary と final essay という形が最も多かったです。essay の長さは授業によってまちまちで、また、文献をくれる先生もいれば自分で探さなければならない場合もありました。その中で、”Online Culture and Mediated Comunication”という授業だけは最終テストのみで成績が決まる講義でした。講義内容と毎回課題として読んだ文献の内容すべてがテスト範囲で、選択式の問題が10問と、自らの経験を問われる自由記述式の問題が一問出題されました。

ユヴァスキュラ大学での1セメスターを通して、日本で受けてきた授業と大きく違うと感じた点は、授業が教員と学生、または学生同士の相互のやり取りが為されるように工夫されていた点です。多くの授業でディスカッションの時間が設けられており、講義内容に関連したトピックで学生同士の意見交換をしました。印象深かったのは、”Finnish History and Culture”という授業で、「あなたの国はどのように第二次世界大戦に関わり、その歴史は今どのように人々に理解されているか」というディスカッションを行ったことです。グループメンバーの中には、戦時中日本が統治した東南アジアの国出身の学生もおおり、その人を前に、日本人として何を言えばいいのか本当に悩みました。しかし、色々な国や文化が混ざる場面においては、自分の国のことを深く理解していること、そのうえで自分の意見をもち相手の意見を尊重できる能力が必要とされるのだと感じ、貴重な経験ができたと感じています。

また、授業中でも挙手して質問や意見を述べる学生が多く、一つの質問から教員と学生の間で意見交換が始まるケースも多かったです。ただ講義に耳を傾けてノートをとるだけでなく、分からないことはその場で聞く、意見を持ったら共有するという姿勢で学ぶことを心がけようと思えました。

2. 生活の状況

気候面では、厳しい冬の寒さを思い出せないほど暖かく過ごしやすい日が続いています。日本より日差しが強いように感じられ、サングラスを重宝しました。半袖のTシャツ一枚で出歩けるような、快適な気温になりました。日も長くなり、10時半頃まで明るいことが普通になりました。日の出も朝4時頃と早く、冬と比べると昼夜の長さが逆転しました。自室に遮光カーテンがなく寝づらいのでアイマスクを着用して寝ています。下の写真は10時半頃に撮影した、湖と夕日です。



また、フィンランド流の夏の過ごし方も体験しました。多くのフィンランド人は、夏の間滞在するための mökki（モッキ）というコテージを所有しています。私も友人の家族が所有するコテージに連れて行ってもらいました。市の中心部から車で 1 時間ほどでコテージがある島が浮かぶ湖に到着します。そこからボートで 5 分ほど湖上をすすむとコテージに到着します。

日中は、前年の秋から冬にかけてたまった落ち葉を掃いて花を植えたり、芝生の上に座って日向ぼっこをしたりして過ごし、夕方にはサウナを用意してもらいました。



左の写真にある通り、寝室やリビングのある建物とは別に独立したサウナを持っているのもフィンランドならではの慣習です。

薪を燃やして暖める旧式のサウナで、熱したサウナストーンに水をかけることで蒸気を発生させます。サウナで温まったあとは水風呂につかる代わりに湖で泳ぐのがフィンランド流。5 月

中旬とはいえ水温はそこまで高くなく、最初は寒く感じましたが、泳いでいるうちに心地よく感じるようになったのが不思議でした。

湖と森に囲まれた静かな場所で家族と時間を過ごす、フィンランド流のゆったりした夏の過ごし方は、日本では味わえない安心感をもたらしてくれました。